

安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり審議会 会議概要（掲載用）

1	会議名	安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり審議会（第7期）
2	日時	令和4年5月19日（木）午後2時～午後4時30分
3	会場	豊科交流学習センター 「きぼう」 2階 多目的交流ホール 川上委員、久保田委員、佐々木委員、降幡委員、鈴木委員、布山委員、伊藤委員、猿田委員、 等々力委員、尾碁委員、二木委員、猿田委員、小野委員（欠席者：甕委員、高橋委員、高野委 員、丸山委員、竹田委員、以上4名）
5	担当課出席者	渡辺政策部長、財津人権共生課長、横川副主幹、大場主査
6	公開・非公開の別	一部非公開
7	傍聴人	0人 記者 2人 信濃毎日新聞社、松本市民タイムス
8	会議概要作成年月日	令和4年5月25日（水）
協 議 事 項 等		
【審議事項】		
1	令和3年度アンケート調査の結果について	
2	令和3年度の目標値に対する達成度について	
3	多様性を尊重し合う共生社会づくり条例及び計画策定（案）について	
4	その他	
【会議概要】		
（要旨・主な意見）		
1	令和3年度アンケート調査の結果について	
（事務局 説明）		
会長	事務局より国・県の状況も踏まえて説明があったが、初めに資料1について。	
委員	全体的に見て、調査結果を比べると国が良いようだが、県もしくは国等比較して傾向はどうか。	
事務局	大きな都市において男女共同参画が進んでいる。また、県内19市で人口規模の大きいところで進んでいる傾向が見られる。	
委員	進んでいるのは、どんな要因か。	
事務局	直接アンケートからは見えないが、男女共同参画が企業の中の環境があるかどうか も重要。役割分担についても同じだが、女性が活躍する環境が整っている企業から 広がっていると考えられる。	
委員	肝心な部分は、女性の占めている割合、給料の問題。育休についても同じで、女性 が育休をとるのが普通であって、取得格差がある。当たり前の風習の中で脱皮でき ていない。これから平等に力を入れ育てていくことが望ましい。	
委員	確かに女性が少ない。女性側の問題だけではなく、女を表に出さない意識がある。 地区の役員などに女性が出たくても、出そうとしないことが「ちらっと」みえる。 男性が女性のやる気をおさめてしまっている。仕事に関しては、年配の者が考えな ければいけない時代が来ている。いろんな立場から同じことが言える。女性の登用 についても、入社した時にもっと上に行けるという教育が今から行うことが必要。	
委員	アンケートの結果は結果で真摯に受け止めなければならない。進んでいる点、残っ	

	ている点がある。行政の立場でできること、やらなければいけないことをどのように計画していくのか、そこが一番大事だが、案があるか。
事務局	案についてはこのあと説明するが、今回の条例改正では、男女共同参画だけでは難しいというという観点から広い観点で計画策定を進めていきたい。
委員	問7の「男女の地位の平等について」学校教育分野以外においては、平等の認知が進んでいないのはなぜかと思った。社会通念・習慣しきたりがずっと続いてきて私たちの改革が進んでいないと感じる。習慣・しきたりで、15年やっても昇級がないのが現状。どうやって、みんなで育休が取れるかなど、具体的な方針がほしい。
委員	国・県・市何%ということも示して欲しかった。女性の登用について、つぶされている実態があるので改善が必要。個人では解決できないのでお願いしたい。
事務局	これからつくる計画で明らかにさせていただく。
会長	事業所、外国人について。
委員	回収率が29.9%と低い。会社の意識が低い。回収率4割は欲しい。外国人の雇用保険に該当するケースがないというケースがあるがどのような場合か。働かせているのならば、雇用保険や健康保険に加入させるのが当たり前だと思うが、該当するケースがないということがあるのか。
事務局	企業の状況は詳しくは不明。今回のアンケートを実施する際に、松本市と比較したいと考え参考にした。何かの理由で労働保険に加入できない事情があるかもしれない。市として必要があれば周知していきたい。
委員	このアンケートは無記名か？事業所に対して何かアドバイスできないか？
事務局	無記名方式の為アドバイスはできない。今後必要に応じて周知等対応したい。
会長	ハラスメントについて事務局から説明を。種類が多い。教えてほしい。
事務局	マタニティー、LGBT（性的少数者マイノリティー）などもあるが、認知が進んでいないのが現実。今後、市として知らせていきたい。
会長	続いて外国籍市民に関するアンケートに関して。
委員	外国人の方々のいろんな考え方がよく分かった。今後、これをもとに事業を進めてほしい。団体と寄り添う活動に期待したい。活動と今後の方向性が見えてきた。地域との交流を図り、外国の方に住みやすい安曇野になって欲しい。地域の人たちが、ひと声かけられれば良いと思う。やさしい日本語に寄り添っていただきたい。
委員	公民館事業で道祖神めぐりを開き、初めて講座へ2人の外国籍の方の参加があった。参加者のみなさんとネットワークができたようだった。周りの方も違和感なく接しており大変嬉しく思った。これからもつながっていけばいい。
委員	外国籍の方の相談も多い。市に住む外国籍の方には幸せを謳歌して欲しいが、多文化共生とは異なる文化を受け入れるということになると思う。アンケートに、例えばイスラム土葬が欲しいとの話があったが、今後どのように応えていくのか。
事務局	宗教が違うことで地域のトラブルになる事例がある。今後計画づくりで考えていく。
委員	土葬についても、まずは意識を持ってもらうこと、知ってもらうことが一番大事。外国籍の方は仲間意識が強い。日本の文化を取り入れながら住んでいくことが大事。お互いに楽しく関わっていくことが大事である。

委員 イベントで楽しかった、良かったという気持ちは、風土、文化を分かっただくチャンスであり、再び安曇野を訪れる、あるいは住む機会になるのではないか。外国籍に関わる団体は市とともにまちを作り、情報の発信を進めてほしい。

事務局 アンケートの中で外国人の方が、日本の文化を知りたいと前向きな気持ちの方が多。各協会の機会の提供をコロナ終息後、市が支援して進めていきたい。

委員 否定的な考え方の人もいる。ハラスメントを受けた人も同じだと思うが、どのようになったら当事者がおだやかな気持ちになるか方向性を考えてもらいたい。

事務局 いろんな要因で差別が生まれている。シンポジウムを開催するなどして、今後の計画づくりの中に活かして事業を進めていきたいと考えている。

2 令和3年度の目標値に対する達成度について

(事務局 説明)

会長 項目によっては、評価C(達成80パーセント)以下がある。次回は上向きになるようにお願いしたい。

委員 女性の活躍の場について気にしていると思うが、書類や表に出てきていない事実もある。ボランティア団体など約8割が女性の団体である。現実的には女性が多くの場所で活躍していることを知っていておいて欲しい。

事務局 商工会の創業実現セミナーの女性割合は58.3%。女性の意欲が増していることが分かるし、起業への意欲も増してきている。

3 多様性を尊重し合う共生社会づくり条例及び計画策定(案)について

(事務局 説明)

会長 新たな計画の(案)について意見を。

委員 まだ具体的なイメージがわいていないのでよく分からないが、この計画(案)を進めていく中で、計画の変更は可能か。このとおりに進めていただければと思う。

事務局 見直しをかけながら進めていく予定である。

会長 方向性についてはどうか。

委員 「男らしく・女らしく」という時代は終わり、これからは「自分らしく」生きることが大事。この案を作成していただき感謝している。これで進行していただければ。

副会長 日本国籍向けのアンケート問8では、「男は仕事」「女は家庭」の反対が6割以上となっているが、問9では、5割の人が「男性が外の仕事、女性は家事・子育て・介護に向いている」と答えていて、少し気になる結果となっている。事務局いかがか。

事務局 ご指摘のとおり。問8は意識を聞く質問だが、次の設問では、具体的にはというところで「どちらに向いているか」ということ。結果としては性的役割分担意識が根深く残っていると考えられる。

事務局 質問の意図として、男女の役割の意識については、市の前回項目から。この設問は、過去からの推移をみるために設問とした。ご理解をお願いしたい。

副会長 了解した。

(4) その他

事務局

安曇野市共生社会づくりフォーラム、県多文化共生相談センター出張相談会 in 安曇野、「日本語 de スピーチ大会」&「対話会」、安曇野市共生社会づくり広報紙タイトル募集の案内。